

江戸歴史講座 第56回

## 怖いだけではすまない幽霊画の世界

幽霊が実在するか否か。それは未だに明らかになることではありませんが、日本の歴史を振り返ると実に多くの幽霊が登場します。菅原道真・崇徳上皇を始めとして、この世に未練を残した者が霊となって現れる逸話、そしてその様子をイメージして描いた幽霊画は、日本の文化として確かに存在します。今回はそんな幽霊画をテーマにした講演です。

幽霊画と聞くと、怖いものと思いがちです。しかし江戸時代、観賞用に幽霊画が描かれ始めると、多様な姿を表すことになります。本講では、幽霊画成立までの歴史や、妖怪と幽霊の違いから幽霊画についてお話しします。そして、円山応挙の登場によって、美しくも妖しい幽霊画が出現し、その後、恐怖の表情を持つもの、コミカルな表情を持つもの、夫婦の幽霊、男の幽霊、足のある幽霊など、幽霊画が多様化する世界を見ます。その中で、日本人と幽霊の付き合い方を考えてみます。



作者不詳《牡丹灯籠》金性寺蔵

### 講師 安村 敏信（北斎館館長）

1953年富山県生まれ。東北大学大学院博士課程前期修了。1979年より板橋区立美術館学芸員として、江戸時代美術史のユニークな展覧会を開催。2005年より13年まで同館館長を務め、以後、萬美術屋の屋号で日本美術の普及活動をフリーの立場で展開。編著書に『江戸絵画の非常識』（敬文館）、『日本美術全集・第13巻「宗達・光琳と桂離宮」』（小学館）、『線で読み解く日本の名画』（幻戯書房）、『若冲BOX・FIVE-COLORS』（講談社）など多数。

### 開催概要

- 日時：2018年11月8日（木）19:00～20:30（18:30開場）
- 会場：日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール（大ホール）
- 定員：200名（事前申込順、定員に達し次第締切）
- 参加費：1,000円（千代田区民500円 ※住所が確認できるものをお持ちください。）
- 申込方法：ホームページの申込フォーム、電話（03-3502-3340）、来館（1階受付）いずれかにて、  
①講座名、②お名前（ふりがな）、③電話番号をご連絡ください。

〈 お問い合わせ先 〉

日比谷図書文化館 広報担当：中澤 nakazawa-hiroyuki@shopro.co.jp / 並木 namiki-yuri@shopro.co.jp  
〒100-0012 東京都千代田区日比谷公園1-4 TEL：03-3502-3342 / FAX：03-3502-3341